

## 令和7年度 学校評価アンケートについて

○：よい点  
●：課題  
☆：昨年度との比較

### 1 充実した学校生活の実現に関する質問（質問1～5）について

<分析>

- 質問2（学校行事への取り組み）については、教職員、生徒、保護者の全てで90%を超える肯定的な回答が得られました。
- 質問1（学校経営方針の実施）において、教職員の肯定的な回答が95%に達しました。
- 質問3（生徒の自治活動・学校づくり）については、生徒の肯定的な回答が70%に満たない結果となりました。
- 質問4（いじめのない学校づくり）においては、保護者での肯定的回答が75%に満たず、他項目に比べ低い傾向にありました。
- ☆ 昨年度に比べ、質問1（学校経営方針）における教職員の肯定的回答が上昇した一方で、質問3（生徒による学校づくり）については、生徒で10ポイント程度、教職員で10ポイント弱と大幅に減少しました。

<回答>

- ・ 学校祭などの行事に対して、生徒が主体的に取り組んでいる点は本校の強みです。今後も生徒が自ら考え、行動できる場を大切にしていきます。
- ・ 生徒の自治活動や学校づくりへの意識が昨年度より低下している点は大きな課題であると分かりました。生徒会活動や学級活動の在り方を再検討し、生徒がより「自分たちの学校」であると実感できる環境づくりに努めます。
- ・ 「多様な『幸せ』の実現」の意義を学校全体でより浸透させ、いじめ防止を推進するとともに、保護者の皆様に学校のいじめ防止への取り組みがより伝わるよう、情報共有を強化し、安心・安全な学校環境を維持していきます。

### 2 授業や学習に関する質問（質問6～9）について

<分析>

- 質問8（タブレット端末の活用）については、85%近くの生徒が自分に合った学び方ができているという肯定的な回答がありました。
- 質問9（家庭学習）については、教職員の肯定的な回答が40%に満たず、三者共通の課題となっています。また、教職員による質問6（基礎学力の定着）や質問7（主体的学び）への自己評価も7割程度に留まりました。
- ☆ 昨年度との比較では、質問7（主体的学び）における教職員の評価が大幅に減少しました。一方で、保護者については、質問6～9の全ての項目で評価が上昇しました。

<回答>

- ・ タブレット端末を活用した個別最適な学びについては、生徒が手応えを感じていることが

分かりました。一方で、基礎的な学力の定着や主体的な学びの深化については課題が残っているとと言えます。引き続きICT機器の効果的な活用を推進しつつ、望ましいICT活用について吟味を重ねます。

- ・ 家庭学習の習慣化については、依然として課題が残ります。授業と連動した家庭学習の工夫など、生徒が自主的に取り組める仕組みを検討します。
- ・ 保護者からの評価の数値が全ての項目で上昇したことから、学校の取組に一定のご理解をいただけていることが分かりました。引き続き、保護者の皆様に安心していただけるような取組を進めます。
- ・ 教職員は常に学習指導について研鑽を積んでおりますが、改めて生徒が主体的に学びを深められる授業の在り方について、校内研修を強化します。

### 3 生活や部活動に関する質問（質問10～16）について

<分析>

- 質問11（交通ルール・安全）については、教職員・生徒ともに95%を超える非常に高い肯定率となりました。また、質問10（マナー・礼儀）も三者で概ね良好な結果となりました。
  - 質問13（部活動の有意義さ）における教職員の肯定的な回答が50%を下回り、昨年度から激減しました。また、質問15（情報発信）および質問16（地域連携）における生徒の肯定的な回答が、それぞれ5～6割程度という結果となりました。
- ☆ 質問13（部活動）の教職員による肯定的な回答は、昨年度に比べて20ポイント以上低下しました。生徒の情報発信への関心も15ポイント以上減少しました。

<回答>

- ・ 交通ルールや挨拶などの生活習慣は高く保たれていましたが、登下校時の自転車の乗り方には課題が残ります。今後も地域の一員としての自覚を持った指導を継続します。
- ・ 部活動については、活動の在り方や教職員の関わり方について大きな意識の変化が見られました。生徒にとって有意義であり、かつ持続可能な活動形態を検討する必要があります。
- ・ 学校からの情報発信や地域貢献活動について、生徒の認識が低下しています。生徒が学校の様子をより身近に感じ、地域の一員として貢献を実感できる機会を創出します。

### 4 在校時間、働き方に関する質問（質問17※教員のみ）について

- ・ 質問17において、自身の在校時間を把握し時間外勤務を少なくするよう努めている教職員は7割程度と、昨年度より減少しました。教職員が心身ともに健康で、情熱を持って教育活動にあたることが、生徒の「多様な幸せ実現」には不可欠です。業務の効率化を進め、適切な勤務管理を行うことで、教育の質を維持・向上させる持続可能な職場環境づくりを推進してまいります。保護者の皆様のご理解をお願いいたします。